

## 1. 霊山観音

POW研究会のモートンさんが寺から捕虜の死者名を書いたカードの収納キャビネットの鍵を預かって、案内してくれました。モートンさんと寺との間の厚い信頼関係のお陰でできる贅沢な見学です。寺は日本政府が国連に提出した死亡捕虜のリストのコピーを2部所蔵し、その内の1部をカードに編さんしました。カードの収納キャビネットは丈夫なもので、しっかりした台紙のカードに死者名とその情報が一人ずつ切り貼りされていました。非常に根気と集中の要る作業だったでしょう。横の棚には、世界各地の戦没者墓地から集めた「土」が容器に入れられ、国旗と共にならんでいます。霊山観音を創建した石川博資氏の思い入れと熱意が感じられます。石川氏（1891～1965）は、1916年南米に渡り、以後中国や東南アジアを巡り、戦前は宝金興業を起こし伊豆の金山開発もしていたとの事。また、皇居前広場に和気清麻呂像を寄付し、戦後は「帝産観光」を創業しました。石川氏がどういう気持から、苦勞をいとわずこうした行為を続けてこられたのか、知りたいと思いました。



霊山観音



捕虜銘々票とキャビネット

## 2. 捕虜収容所神戸分所跡と神戸港平和の碑

神戸分所跡地は東遊園地という美しい公園に隣接しています。何の標識もないので、福林さんの案内がなければまったく見当がつかません。通りの名前だけが当時と同じだそうです。港町ならではのエキゾチックな建物が散在する通りを散策しながら、神戸港平和の碑に向いました。強制労働で亡くなった朝鮮人・中国人・捕虜を慰霊する碑です。建設に尽力した「神戸港を調査する会」の方たちと共に追悼の集いに参加しました。



神戸港平和の碑の前で

### 3. 戦没した船と船員の資料館

碑の少し西のビルにある資料館は、全日本海員組合がOBの集めた資料や調査記録の散逸を防ぐために、旧サロンと宿泊施設を改造して開いたものです。日本人船員が激減＝組合員の減少の苦しさの中で、資料保存に努力されています。私たちが繰り出す様々な質問に丁寧に対応していただきました。私が衝撃を受けたのは、日本軍の兵員輸送基準の話です。最初は1坪（畳2枚）に4名、戦争末期には1坪12名だったそうです。捕虜虐待を論じる際、「同胞たる日本兵に、かかる非人道的で残酷な処遇を平然と行った軍部の責任」も迫りすべきです。日本兵も同じ基準だったのだ、と言い訳する前に。

夕食は中華街で先程の「神戸港を調査する会」の方たちとの会食でした。



戦没船の写真を壁面いっぱいに展示



船倉の構造模型

### 4. 「ピースおおさか」ミュージアム

2日目は、15年戦争研究会の塚崎昌之さんの案内で「ピースおおさか」見学から始まりました。2階から入ると「大阪の戦時下の生活と空襲」の展示、1階は「15年戦争全体の系統的展示」を行っています。捕虜問題も独立した項目で解説し、バターン死の行進・泰緬鉄道・チャンギー刑務所の写真も掲示されていました。加害の歴史についてここまで踏み込んで解説した博物館はないでしょう。それゆえ、歴史修正主義者からの攻撃はすさまじく、橋下市政によって1階の展示はつぶされようとしています。祖国の誤りに正対しない臆病な態度は何に由来するのでしょうか。決して庶民レベルでは、そうした考えが多数派だとは思えないのですが。



ピースおおさか 大阪国際平和センター

## 5. 大阪城周辺の戦跡めぐり

大阪城内に現存する戦争時代の建物は、第四師団・中部軍司令部の3階建ての堅牢な建物だけです。今は空き家となっており、解説板も人目に触れにくい位置に立っています。戦争遺跡指定候補になっているため破壊される心配は当面ありませんが、他の付属施設はどうなるのでしょうか。標識もないため、塚崎さんや福林さんの案内がなければ、まったくわかりません。軍都大阪は地上から消えてしまったのです。でもそれは、大阪の庶民にとって祝福すべきことなのかもしれません。城の石垣にできた隙間は、地下壕が作られたために生じたものだそうです。天守台の石組みの歪みは、1トンの爆弾爆発によるクレーターに向い、石組みが沈みこんだため、できたものだそうです。石工の名誉のためにも説明板を建てるべきです。



旧第四師団司令部



爆撃のため歪んだ石垣

## 6. 大阪港周辺の戦跡めぐり

港に面してあった大阪俘虜収容所の跡にも標識はありません。当時のもので今残っているのは住友の赤煉瓦積み倉庫くらいです。ここでも捕虜が働かされていました。港住吉神社の境内には、軍馬の碑が台座だけ残っています。日露戦争時の砲弾を並べて碑にしたものもあります。この港は兵と物資の積み出し港だったのです。

次に、天保時代に港の浚渫によりできた築山が、幕末に砲台建設のために削られて「日本一低い山」となった天保山に向います。近くに陸軍糧秣支廠があったため、食糧となった動物を慰霊する「獣魂碑」が建っています。この碑を見た中国人強制連行犠牲者の遺族が、「獣にさえ碑があるのに私たちの犠牲は打ち捨てられたまま」と怒り、嘆きました。そこで「犠牲者の碑」を建てる運動が始まります。市有地に碑を建てるため、碑文の表現には妥協が強いられましたが、2005年「日中友好の碑」が建ち、中に犠牲者の過去帳が納められました。こうした地道な努力を重ねる人たちがいることは、本当に心強いです。帰途、朝潮橋のホームから大阪捕虜収容所市岡病室跡を確認しました。さてさて、今日1日に歩いた歩数は18000歩にのぼりました。



天保山公園で